

## 大使活動報告

2014年3月中旬～下旬の活動報告

### 国費留学生の送り出しと元留学生同窓会の発足他

2014年3月30日  
在グアテマラ大使  
川原 英一

#### **◆国費留学生送り出しレセプションと元留学生同窓会の発足**



3月27日、4月に訪日予定の5人のグアテマラ国費留学生達(左側写真)の送り出し・元国費留学生のためのレセプションを公邸で行いました。この集まりにデル・アギラ教育大臣(同じ左側写真の右端から二人目)、教育省協力局長、企画庁国際協力担当者、サンカルロス大学、ランディバル大学、キナル職業訓練専門学校長らが参加して頂いた他、国費留学生第一号のベルナル・エレラ歯科医

師(東京歯科大学卒)など20名ほどの元国費留学生の方々がご参集下さいました。デル・アギラ教育大臣から、こうした元日本国費留学生がグアテマラへ帰国後に多くの分野で日本留学を誇りに思いつつ、活躍をされていることに感銘を受けたと述べておられます。当方から、1974年にグアテマラ国費留学生の受入れ開始から現在は78名を数える元国費留学生のため、同窓会の発足を提案し、初代会長としてハミルトン・アブレウ歯科医(東京歯科大学卒)を推薦して、満場一致で、ご承諾を得ました。

今後、2015年の日本・グアテマラ外交関係樹立80周年関連事業を同同窓会と日本大使館が協力して行うことになりました。

#### **■青少年育成スポーツ計画への器材供与署名式(草の根文化無償資金協力)**

3月11日、グアテマラ・オリンピック財団を通じて、同財団主催の青少年育成スポーツ計画に参加しているグアテマラ市の貧困層地区に住む青少年のため、練習に必要な器材及び青少年の練習所から競技場所への移動用車両の提供を目的とした草の根文化無償資金協力を実施することとなり、署名式を行いました。体操競技器材一式及び青少年が住む貧困層地区と練習施設や競技会への参加のための移動の足となるマイクロバス1台を供与するものです。

グアテマラ・オリンピック財団のフェルナンド・ベルトラレナ代表、オリンピック委員会グアテマラ委員で同財団副代表であるウィーリー・カルシュミッツさん、同財団関係者、スポーツ計画



に参与している体操やレスリングのコーチ・小学児童から専門学校生までの代表を含め計40数名が、また、当地プレス関係者等が会場となったグアテマラ市内中心地区にある産業銀行内ホールに集まりました。

体操コーチの方から、子供の頃、JICA のスポーツ指導者に6年間指導を受けてお世話になった、今回、日本からこのような素晴らしいプレゼントを頂き、大変に感謝しています、とのお話がありました。会場に来てくれた児童・青少年達と署名式前に話しをしたところ、日本人が名前に使う漢字へ旺盛な好奇心を示し、また、大変に元気で活発な印象を受けました。



署名式を報じた記事例)

**■小学校改修・草の根無償資金協力署名式**

3月11日午後、日本大使館の会議室でサンマルコス県の3つの集落小学校改修のための草の根資金協力2件の署名式が行われました。社会貢献活動を積極的に実施し、今回の協力パートナーとなるカスティージョ・コルドバ財団の会長、そして、フンカフェ(FUNCAFE)代表の方々と当方との間でそれぞれ署名を致しました。また、署名式後に、当地二つのTV局によるインタビューも受けました。(左写真:当地主要紙による



**◎米国への移民労働者を対象とした新たな金融サービスを展開する邦人**



3月25日、マイクロマノス・コーポレーションという米国への移民外国人層を対象としたソーシャル・ビジネスを2003年からワシントン近郊で運営している枋迫篤昌(とちさこ・あつまさ)さん(右写真の左からお二人目)と関係者が当館にお越し下さいました。

枋迫社長は、東京銀行を2003年に退職されてから、昔日のメキシコの貧困地域での自らの御経験から、米国社会の底辺で働くこれらの移民外国人達の役に立ちたいとの気持ちから、米国の金融サービスを受けられない方々に対するサービスを提供しておられます。米国で働く移民外国人のための金融サービスをワシントンDC周辺地域で開始をされ、母国の家族への送金等金融サービスを安い手数料で提供し、また、移民手続きのためのリーガルサービス等を提供しておられます。

米国で働く移民外国人総数は6千万人を超えるといわれ、こうした人達全ての方が金融サービスを利用できるよう、新たなモデル銀行設立プロジェクトの実施をめざし、こうした移民の母国に足を運んでおられ、既に40カ国に行かれたそうです。社会事業としてのモデル銀行設立への投資を各国で呼びかけておられます。非常にやりがいを感じておられるとのお話でした。

### ■和歌山県青年協力隊活動視察団の来訪



3月26日、JICA(国際協力機構)ボランティア理解促進調査団としてグアテマラでの調査をほぼ終えた和歌山県一行の方が、当大使館を御訪問頂き、1時間ほど懇談致しました。和歌山県町村会の会長で西牟婁郡上富田町の小出隆通町長(左写真:右からお二人目)、和歌山大学観光教育研究センター金岡特任助手(左からお二人目)、JICA関西国際センターの野村さん(右端の方)、日高新報社の玉井記者(左端の方)の皆さん方から、グアテマラでの青年協力隊員の活動視察などのお話を伺いました。

当方からは、和歌山県出身の協力隊員(小学校教員)の活躍に関連して、当国で日本が協力している小学生の算数能力向上プロジェクトの成果、グアテマラの政治経済事情など、お話し致しました。

なお、和歌山大学とサンカルロス大学は、姉妹大学として20年前から交流があり、学生交流の一環で、現在、和歌山大学学生がペテン県のフローレス市にある同大学分校で学んでおり、金岡さんは、大学フローレス・キャンパスにも訪問される予定と伺いました。

### ◆当国での母子健康プロジェクトに従事する専門家との懇談



グアテマラでは、母子健康プロジェクトが日本の協力で4年前から始まりましたが、3月27日、同プロジェクトに携わっておられる3名のわが国専門家の方からお話を伺う機会がありました。先住民の人口が多い西部3県(ケツアルテナンゴ、ソロラ、トニカパン)で、教育面とコミュニティ活動の両面から活動されており、特に地域の保健所と地域中核病院との間での連携の強化、地域中核病院における集中治療体制の強化、地域での母親同士の知見の共有、母子の栄養改善といった取り組みを推進されています。

尾上 謙三先生(左写真:右からお二人目)によれば、過去2年間の集中治療体制の強化など取り組みにより、ケツアルテナンゴとソロラ県では、妊産婦死亡率が2割減少して、10万人当たり平均が100人以下になったとのお話がありました。また、日本の3県での着実な取り組みを高く評価した当国保健省は、日本式の地域病院へのレファレンス方式を今後全国への導入・実施を図りたいとしています。今後、栄養改善面からプロジェクトへ意欲的に取り組みたいと石川専門家(同上写真;左からお二人目)のお話もありました。今後の成果が注目されます。(了)